

會 務

土木學會誌 第十四卷第一號 昭和三年二月

○昭和二年十一月二十八日役員會を開き市瀬會長井上、那波兩副會長青山、井上、大河戸、加賀山、樺島、茂庭、物部の各常議員丹治、村兩主事黒河内編輯委員長出席市瀬會長議長席に着き議事に先ち丹治主事より大阪支部設置に關し創立事務並基金募集方に關する事務を會員後藤佐彦君、同阪出鳴海君、同眞田秀吉君に依囑並編輯委員長川口愛太郎君地方に轉任の爲其の後任として會員黒河内四郎君に委囑したる旨報告あり、次で左記事項を決議せり。
△昭和三年度總會は一月二十一日（土曜日）に開催することとし其の會場を豫め選定し置くこと。

△昭和三年度收支豫算を承認すること。

△關西支部設置に關する規定草案は尙研究の上次回役員會に再び提案すること。

△日本ポルトランド・セメント業技術會混凝土委員より大阪市に開催の混凝土に關する協議會に出席方照會ありたるに付會員直木倫太郎君、同後藤佐彦君に依頼し其の承諾を受くること。

其の他會務に關する事項。

○同年十二月九日編輯委員會を開き黒河内編輯委員長黒田、佐藤、高橋、野口、古川の各委員出席會誌編輯上に就き協議を爲せり。

○同年同月十六日役員會を開き市瀬會長井上、那波兩副會長、青山、井上、大岡、大河戸、樺島、物部の各常議員口下部、中山兩前會長丹治、村兩主事黒河内編輯委員長出席、市瀬會長議長席に着き下記事項を決議し終つて丹治主事より一般會務に關し報告ありたり。

△昭和三年度總會は一月二十一日（土曜日）午後三時半より東京市麴町區有樂町一丁目一番地生命保險會社協會に於て開催すること。

△關西支部規定を承認し昭和三年十二月十六日を以て關西支部設立の日と定むること。

△常議員青山士君地方へ轉任に付定款第十二條に基き會員中村謙一君を補選すること。

△日本鑛業會より申出に係る本會々誌交換方の件を承認すること

其の他會務に關する事項

○昭和三年一月十七日役員會を開き市瀬會長井上、那波兩副會長井上、大河戸、加賀山、樺島の各常議員丹治、村兩主事黒河内編輯委員長出席市瀬會長議長席に着き下記事項を決議し次で丹治、村兩主事より一般會務に關し報告ありたり。

△昭和二年度事業及決算報告を承認すること。

△同年度經費増減額流用方を承認すること。

△同年度に於ける優良論文に関する件は次回役員會迄保留すること。

△大阪市に支會として關西支部を設置したる旨を會誌に會告として掲載すること。尙今後の會誌に同支部關係者の氏名を登載すること。

其の他會務に関する事項。

○同年同月十九日編輯委員會を開き黒河内委員長黒田、佐藤、高橋、古川の各委員出席會誌編輯上に就き協議を爲せり。

○同年同月二十一日臨時役員會を開き市瀬會長、井上、那波兩副會長井上、大岡、大河戸、加賀山、中村、茂庭の各常議員丹治、村兩主事出席市瀬會長議長席に着き下記事項を決議せり。

△昭和二年度中に於ける優良論文として會誌第十三卷第一號に掲載せる會員宮本武之輔君の下記論文に對し昭和二年度第一土木賞牌を贈呈すること。

“Verdrückungsversuche mit Unbewehrten und Bewehrten Betonkörpern”

土木學會定時總會議事概要

昭和三年一月二十一日午後三時半より東京市麴町區有樂町一丁目一番地生命保險會社協會に於て定時總會を開く。出席者會員、准員、學生員共百五名にして市瀬會長議長席に着き開會を宣し丹治主事昭和二年度事業報告を、村主事同年度收支決算報告並に貸借對照表を代讀し出席會員の承認を得たり。

該報告書及貸借對照表の全文は下記の如し。

昭和二年度土木學會事業報告

理 事	市 瀬 恭 次 郎
同	那 波 光 雄
同	井 上 秀 二

昭和二年度中事業の概要を左に報告す。

一、會 合

昭和二年一月十五日午後三時半東京市麴町區有樂町一丁目一番地帝國鐵道協會に於て定時總會を開く、出席會員八十名、准員十名、學生員五名合計九十五名にして會長吉村長策君代理として市瀬副會長議長席に着き事業及決算報告を爲し次て市瀬副會長より會長講演の代讀ありたり。上記以外同年度中の會合は役員會十三回講演會二回編輯委員會十一回東京市内外高速度鐵道調査特別委員會十一回なり。

二、工學大會開催

同年十一月三日より同七日に涉り工學大會を開催し總會當日會長の代表講演あり、次て

土木部會として二日間に亘り講演會を開催し尙東京市並に其附近に於ける各種工場其他を見學せり。

三、役員改選及職員就任

定款第十一條に據り會長吉村長策君、副會長市瀬恭次郎君、常議員金森歙太郎君、同草間偉君、同島重治君、同眞島健三郎君退任に付前項定時總會に於て改選を行ひ當選したる役員の氏名左の如し。

會 長	市 瀬 恭 次 郎君
副 會 長	井 上 秀 二君
常 議 員	青 山 士君
同	井 上 範君
同	大 岡 大 三君
同	加 賀 山 學君

同年同月二十日規則第二十五條に據り職員の推薦を行ひ左の通就任せり。

主 事	丹 治 經 三君
同	村 幸 長君
編輯委員長	川 口 愛 太 郎君
同 委 員	黒 田 武 定君
同	佐 藤 利 恭君
同	田 中 豐君
同	高 橋 苺 也君
同	野 口 寅 之 助君
同	古 川 淳 三君

同年十一月二十八日編輯委員長川口愛太郎君並同年十二月十六日常議員青山士君地方に轉任の爲辭任に付其の後任として編輯委員長に會員黒河内四郎君常議員に會員中村謙一君就任せり。

四、調 査 事 項

前年度中より調査中なりし東京市内外高速鉄道調査委員會は尙引續き調査審議中なり。

五、會誌及震害調査報告書發行

昭和二年度中會誌第十三卷第一號より同第六號迄及會員名簿並震害調査報告第二卷及第三卷を發行せり。

六、前會長並前常議員の逝去

前常議員金森鐵太郎君は昭和二年一月二十六日、前會長中原貞三郎君は同年十二月二日逝去せられたるに付何れも本會に於ては吊詞及花環を靈前に供へたり。

七、登 記 事 項

昭和二年一月十五日の定時總會に於ける理事の改選及資産の總額を金拾萬壹千五百八圓五拾壹錢と變更の件は同月二十六日に、又本會事務所を東京市麴町區永樂町一丁目一番地に移轉の件は四月二十六日何れも其の登記を了せり。

八、土 木 賞 牌 贈 呈

土木學會誌第十二卷第四號に掲載せる會員草間偉君の支線式無線電信柱と題する論文に對し大正十五年度第一土木賞牌を贈呈せり。

九、視 察 旅 行

昭和二年四月二十八日より同三十日に互り名古屋地方大同電力株式會社大井ダム及鐵道省本會川橋梁工事其の他の視察旅行を爲し會員四十九名の參加ありたり。

十、支 會 の 設 置 並 其 の 名 稱

昭和二年十二月十六日大阪市北區堂島二丁目九番地に支會を設置し之を土木學會關西支部とし支部長として眞田秀吉君就任せり。

十一、會 員 數

昭和二年度中に入會者は會員二十九名（内准員より轉じたるもの十四名）准員百九十六名（内學生員より轉じたるもの九十名）學生員九十九名にして合計三百二十四名、退會者は會員五名、准員四十六名、學生員二十四名合計七十五名、死亡者は會員八名、准員七名、合計十五名にして昭和二年十二月末日に於ける現在數は會員千二十七名、准員千七百三十六名、學生員百九十三名、贊助員一名合計二千九百五十七名なり。

昭 和 二 年 度 土 木 學 會 決 算 報 告

理 事 市 瀬 恭 次 郎
理 事 那 波 光 雄
理 事 井 上 秀 二

收 支 計 算

收 入 の 部	科 目	金 額	摘 要
一	會 費	33 412.680	
	内 會 員 會 費	15 736.000	

	准員會費	16 392.500
	學生員會費	1 284.180
一	利子及雜收入	3 931.830
	預金利子	462.640
	基金利子	2 342.690
	雜 入	1 126.500
一	入 會 金	1 101.000
	內 會員入會金	230.000
	准員入會金	667 000
	學生員入會金	204.000
一	會費一時納付金	220.000
一	震害調査書收入	13 971.440
一	前年度繰越金	8 905.710
一	基金より借入	2 708.730
	合 計	69 251.390
	支 出 の 部	
一	事 務 費	14 136.710
	內 通 信 費	329.980
	俸給諸給手當	7 122.160
	事務室及會場費	2 584.500
	消 耗 品 費	160.400
	諸 印 刷 費	1 019.640
	振替貯金料金	788.700
	雜 費	2 131.330
一	會 誌 費	26 035.640
	內 會誌印刷費	23 607.720
	速 記 費	59.000
	翻 譯 費	13.000
	製 圖 費	143.350
	運 送 費	1 855.230
	雜 費	357.340
一	會 費	700.000

一 圖書及備品費	1 898.700	
一 臨時費	1 357.480	
一 震害調査書印刷費	21 289.790	
一 基金に編入金	220.000	會費一時納付金
一 家屋借入敷金	660.000	
一 震害調査費	2 953.070	
合 計	69 251.390	

基金計算

収入の部

一 前年度繰越金	79 140.670	
内 吉市 沖野 兩博士還曆記念基金	16 785.420	
故白石博士記念基金	14 419.400	
故山崎博士記念基金	1 676.070	
廣井博士土木賞牌基金	459.370	
原田博士記念基金	2 755.020	
廣井博士還曆記念基金	6 434.190	
小川博士還曆記念基金	1 057.360	
故富田博士記念基金	526.320	
故石黒博士記念基金	6 376.980	
故近藤虎五郎博士記念基金	3 883.730	
故中島博士記念基金	3 060.000	
故阪田貞明君記念基金	1 075.090	
故岡崎博士記念基金	1 721.660	
故太田圓三君記念基金	2 500.000	
基金	16 410.050	本會積立分
一 基金に編入金	220.000	會費一時納付金
一 利子収入	3 570.340	
内 吉市 沖野 兩博士基金利子	926.100	公債及貯金
故白石博士基金利子	821.410	〃
故山崎博士基金利子	87.500	〃
廣井博士土木賞牌基金利子	26.840	〃

原田博士基金利子	161.060	〃
廣井博士基金利子	375.800	〃
小川博士基金利子	57.500	貯 金
故富田博士基金利子	28.750	〃
故石黒博士基金利子	355.530	公債及貯金
故近藤虎五郎博士基金利子	225.540	〃
故中島博士基金利子	172.500	貯 金
故阪田貞明君基金利子	63.460	公債及貯金
故岡崎博士基金利子	101.580	〃
故太田圓三君基金利子	39.500	貯 金
基金利子	127.270	公債及貯金
合 計	82 931.010	

支 出 の 部

一 經常費に組入金	2 342.690	利子の三分の二(近藤博士分二分の一)
一 翌年度へ繰越金	80 588.320	{本年度利子三分の一を基金に編入せるもの
内 市沖 野古 兩博士還曆記念基金	17 094.120	
故白石博士記念基金	14 693.200	
故山崎博士記念基金	1 705.230	
廣井博士土木賞牌基金	468.310	
原田博士基金	2 808.700	
廣井博士還曆記念基金	6 559.450	
小川博士還曆記念基金	1 076.520	
故富田博士記念基金	535.910	
故石黒博士記念基金	6 495.480	
故近藤虎五郎博士記念基金	3 996.500	此分利子二分の一基金編入
故中島博士記念基金	3 117.500	
故阪田貞明君記念基金	1 096.240	
故岡崎博士記念基金	1 755.520	
故太田圓三君記念基金	2 513.170	
基 金	16 672.470	
合 計	82 931.010	

繰越金内訳

各基金繰越高	80,588,320	
内 有價証券	53,906,400	{五分利公債額面六萬千六百圓貯金局 及三菱銀行保管
當座預金	8,161,510	三菱銀行
定期預金	7,000,000	三菱銀行
郵便貯金	2,807,880	
振替貯金	5,931,350	
現 金	72,450	
經常費貸金	2,708,730	

貸借對照表 (昭和二年十二月三十一日)

貸 方 (負債)		借 方 (資産)	
古市 沖野 兩博士還曆記念基金	17,094,120	圖書及備品	5,051,060
故白石博士記念基金	14,693,200	家屋借入敷金	660,000
故山崎博士記念基金	1,705,230	經常費に貸金	2,708,730
廣井博士土木賞牌基金	468,310	未 收 入 金	11,100,590
原 田 博 士 基 金	2,808,700	假 拂 金	100,000
廣井博士還曆記念基金	6,559,450	有 價 證 券	53,906,400
小川博士還曆記念基金	1,076,520	當 座 預 金	8,161,510
故富田博士記念基金	535,910	定 期 預 金	7,000,000
故石黒博士記念基金	6,495,480	郵 便 貯 金	2,807,880
故近藤虎五郎博士記念基金	3,996,500	振 替 貯 金	5,931,350
故中島博士記念基金	3,117,500	現 金	72,450
故阪田貞明君記念基金	1,096,240		
故岡崎博士記念基金	1,755,520		
故太田圓三君記念基金	2,513,170		
基 金	16,672,470		
翌年度へ繰越金	16,911,650		
合 計	97,499,970	合 計	97,499,970

財 産 目 録

貸借對照表資産の部と同一に付省略す。

次に役員の改選を行ひ會長の指命せる開票立會人辰馬鎌藏君，關信雄君，古川淳三君は投票三百二十一通の開票を爲したり，當選役員會長四票，副會長四票，常議員二十九票以上の得點者は下記の如し。

會 長

二百七十七票 (當選)

十六票

四票

副 會 長

二百六十九票 (當選)

四票

四票

四票

常 議 員

百十四票 (當選)

百 三票 (同)

七十七票 (同)

七十六票 (同)

七十六票

四十九票

四十一票

二十九票

岡 野 昇君

那 波 光 雄君

丹 羽 鋤 彦君

中 川 吉 造君

井 上 範君

大河戸 宗 治君

八 田 嘉 明君

牧 野雅樂之丞君

福 田 次 吉君

黒河内 四 郎君

米 山 辰 夫君

金 子 久 次君

久保田 敬 一君

近 新 三 郎君

阿 部 美樹志君

上記役員改選開票中に會長講演あり，終りて議長より開票の結果を發表し，午後五時半閉會せり。續いて活動寫眞の映寫に移り午後六時半より晚餐會を催す。出席者五十六名盛會裡に午後八時半散會せり。

○同年同月二十五日臨時役員會を開き岡野會長井上，中川兩副會長井上，大岡，加賀山，黒河内，中村，福田，牧野，米山の各常議員廣井，市瀬兩前會長村主事主席，岡野會長議長席に就き左記事項を決議せり。

△編輯委員長黒河内四郎君は常議員に當選せられたるも編輯委員長は引續き同君に兼務を依頼すること。

△編輯委員野口寅之助君，同黒田武定君，同佐藤利恭君任期滿了退任に付其の後任として會員三浦七郎君，同平山復二郎君，同菊池英彦君を，其の他の職員は全部引續き前任者を推薦すること。尙從來の編輯委員六名を七名とし増員に對する推薦は追て之を爲すこと

其の他會務に關する事項。

- 同年二月二日東京區裁判所に於て理事の改選及資産總額變更の登記を了せり。
- 昭和二年十二月十七日日本會々員名簿を發行し翌十八日各會員に配布せり。
- 同年同月二十五日震害調査報告第三卷發行成規の届出を爲し同二十六日より各應募者に配布せり。
- 同年同月二十日土木學會誌第十三卷第六號發行成規の届出を爲し同二十一日各會員に配布せり。
- 准員宇野利助君は「宇野甚七」と、同森俊夫君は「加藤俊夫」と、同吉崎恭介君は「吉崎宇右衛門」と改姓又は改名せられたる旨通知ありたり。
- 下記の諸氏は退會せられたり。

會 員

小 川 八 助君	千 葉 省 二 郎君	
	准 員	
伊 藤 利 喜 藏君	石 山 新 三 郎君	今 村 萬 次 郎君
稻 葉 健 三君	川 谷 藤 男君	塚 田 良 親君
中 村 五左衛門君	西 村 隆 雄君	林 有 一君
久 恒 廣君	水 野 鉦 三君	水 野 廣 之 進君
	學 生 員	

佐 藤 謙 一君

- 昭和二年十一月十六日以降昭和三年一月十五日迄に於て入會を承認し名簿に登録したるもの下記の如し（○即は轉格者を示す）。

會 員（十五名）

○村 野 爲 次君	和 田 保君	遠 矢 龜 吉君
水 谷 當 起君	○鈴 木 義 一君	平 林 武君
○鈴 木 重 英君	敬 禮 寺 信 三君	山 本 卯 太 郎君
豐 原 雄 太 郎君	片 岡 安君	○河 合 清君
長 谷 川 正 五君	馬 場 齊 吉君	溝 江 五 月君

准 員（二十六名）

○美 藤 義 利君	○高 木 健 吉君	赤 司 彦 一君
○江 藤 禮君	○廣 川 傳 二君	眞 鍋 將 太君
厚 地 盛 義君	北 川 恒 雄君	○佐々木 與 志君
高 田 半 吉君	永 田 庄 吉君	山 口 豫 時君

太田秀雄君	○小會根七郎君	田村邦二君
堤滿穂君	戸木周吉君	矢野諭理男君
中島勇吉君	足羽邦太郎君	大西淺市君
行徳直誠君	高橋勇君	高橋正久君
松岡義郎君	水尻倉太郎君	

學 生 員 (十八名)

原明誼君	香山四郎君	近藤信一君
中村俣治郎君	武田良一君	須内鼎五君
藤芳義男君	加賀美數馬君	堀内恭一君
杉浦文雄君	中村輝男君	新原芳夫君
平田益泰君	古屋久義君	長田磯雄君
田邊右門君	高橋孝一君	中西幸男君

○昭和二年十一月十六日以降昭和三年一月十五日迄に於て寄贈及交換を受けたる雜誌其の他下記の如し。

寄贈を受けたる分

帝國學士院記事第 8 號	一冊	帝國學士院
復興局技術試驗所報告	一冊	復興局技術試驗所
三菱電機第 11, 12 號及第 4 卷第 1 號	三冊	三菱電氣神戸製作所
日本電氣小史	一冊	電氣の友社
土木建築資料通信第 140, 141 號	二冊	土地建築資料通信社
日立評論第 11 號及第 12 號	二冊	日立評論社
セメント界彙報第 175, 176, 177, 178 號	四冊	セメント界彙報發行所
電氣製鋼第 11, 12 號	二冊	電氣製鋼所
滿洲技術協會誌第 22 號	一冊	滿洲技術協會
土木建築雜誌第 6 卷第 12 號及第 7 卷第 1 號	二冊	シビル社
工學彙報第 4 號	一冊	九州帝國大學工學部
名古屋工業會々報第 56, 57 號及會員名簿	三冊	名古屋工業會
工事畫報第 12 號及第 4 卷第 1 號	二冊	工事畫報社
土木試驗所報告 6 第 8 號	二冊	內務省土木試驗所
工業十二月號, 一月號	二冊	大阪工業會
東洋建築材料商報十二月號及一月號	二冊	東洋建材商報社
工業社會第 12 卷第 11 號第 13 卷第 1 號	二冊	東京工業會

第六回治水工事に關する統計書	一冊	內務省土木局
水曜會誌第 6 號	一冊	京都帝國大學工學部採礦冶金科
帝國學士院記事	一冊	帝國學士院
金澤工業會々員名簿	一冊	金澤高等工業學校土木科
工業の大日本臨時號	一冊	工業之日本社
本邦土堰高堤	一冊	工學博士近藤仙太郎氏
仙臺高等工業學校記要第 2 號	一冊	仙臺高等工業學校
工學部記要第 3 號	一冊	北海道帝國大學工學部
同 第 6, 7 號	一冊	九州同上
同 第 17 卷第 6 號	一冊	東京同上
日本標準規格第 2 冊	一冊	工業規格統一調查會
金澤工業會誌第 7 號	一冊	金澤工業命
日本動力會議々事錄第一輯	一冊	日本動力協會
交換の分		
機械學會々員名簿	一冊	機械學會
業務研究資料第 15 卷第 12 號	一冊	鐵道省大臣官房研究所
鐵と鋼第 10, 11, 12 號	一冊	日本鐵鋼協會
第三回講演大會講演大要	一冊	同上
造船協會雜誌第 68, 69 號及會員名簿	三冊	造船協會
日本建築士第 5, 6 號	二冊	日本建築士會
建築雜誌第 502, 503, 504 號及會員名簿	三冊	建築學會
帝國鐵道協會々報第 6 號	一冊	帝國鐵道協會
震災豫防調查會報告第 101 號	一冊	震災豫防調查會
工業要錄第 11, 12 號	二冊	工業要錄發行所
港灣第 12 號及第 6 卷第 1 號	二冊	港灣協會
工業化學雜誌第 12 號	一冊	工業化學會
同上歐文綴	一冊	同上
電氣學會一覽及電氣學會雜誌 473 號	二冊	電氣學會
工政 98 號及工政會々員名簿	二冊	工政會
早稻田大學理工學會々員名簿	一冊	早稻田大學理工學會
日本鑛業會誌 511 號 512 號及會員名簿	三冊	日本鑛業會

會 員 中 原 貞 三 郎 君

本會前會長工學博士中原貞三郎君は昭和二年十二月三日逝去せられたり、本會は此の訃音に接し弔詞及花輪を靈前に呈し哀悼の意を表したり。

會 員 藤 井 彌 太 郎 君

會員工學士藤井彌太郎君は昭和二年十二月七日逝去せられたり、本會は此の訃音に接し弔詞を靈前に呈し哀悼の意を表したり。

准 員 新 井 榮 一 君

准員新井榮一君は昭和二年十一月三十日逝去せられたり、本會は謹んで哀悼の意を表す。



岡野昇

會長
工學博士
岡野 昇



中川吉造

副會長
工學博士
中川 吉造



井上秀二

副會長
工學士
井上 秀二